新世紀 町長インタビュー

いよいよ21世紀の幕開けです。今年はまた合村百周年という節目の年ですが、これまでの町の歩みについて感想を伺います。

明けましておめでとうございます。皆さまのご多幸とご繁栄を心からお祈り申し上げます。

さて、今年は合村百周年を迎え、感慨無量であります。明治34年（1901）阿賀野川・小阿賀野川沿いに発展してきた五ケ村が、明治の大同合併により合併し、新「横越村」が誕生いたしました。

想起すると、当時の首長と議会、村民は議論を重ね、「新世紀に向かって教育の振興を図らなければ、地域の繁栄も住民の幸せもあり得ず、財源確保も厳しい」との判断から、小異を捨て大同につく政治決断をしたものと思います。将来を想定し挑んだ先人たちの勇気ある行動と実行により今日の横越町があることを感謝し、決して忘れてはいけません。

敗戦後、食糧難と物不足による飢えの時代を迎えました。この困難の時期を克服し、高度経済成長期には、テレビや洗濯機、冷蔵庫などが普及し、農業の機械化や農地の基盤整備など農業近代化政策がスタートし、日本がわずか30～40年の過程の中で、世界の経済大国・長寿大国にまで発展したことは、世界史上例がないことです。

そして、平成8年、合村95年目にして町制を施行し、今年で5周年を迎え、更なる発展が期待されています。

町づくりは人づくりとも言われています。教育・文化の振興について伺います。

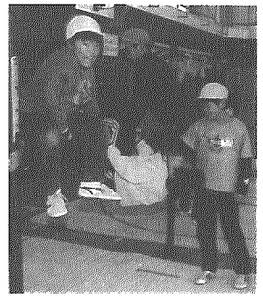
町づくりも人づくりも、教育の重要性は論を待ちません。教育文化の振興こそ、新しい時代をつくる礎であります。

特に20世紀は、戦争という激動と混乱の中で、社会の大きな変化を経験しながら、数々の苦難を乗り越えてきました。世界に誇れる日本の繁栄を築くことができたのは、すべて教育の力であると言えます。子どもたちが自分を信じ、地域を愛し、社会のために奉仕する正義感や倫理感、人間性や文化を大切にする豊かな心、たくましく生きるための健康な心身を培うために、家庭や社会が協力し合いながら取り組むことが重要です。

町では、子どもたちが安心して学べる学校施設の整備について、積極的に取り組んできました。当面する施設整備としては、中学校校舎の北・東校舎の全面改築を計画し、一日も早い完成を目指したいと考えております。

新世紀元年です。21世紀の町づくりについて伺います。

私たちは、地域の自主性と責任に基づいた「自ら考え、自ら行う新たな町づくり」に挑戦しなければなりません。優れた町民の英知と勇気を結集し、さらに夢と希望の持てる社会に向けて、努力する必要があります。



21世紀を担う子どもたち

昨年施行された地方分権推進法および地方分権推進一括法は、国と地方の責任分担を図り、過去の上下主従関係から対等・協力関係へ、さらに公正、透明な行政展開を求めたものです。まさに自己決定・自己責任・自己負担の時代、地方の時代が到来したのです。しかし、現実には、産業・経済情勢の悪化と長引く景気低迷、それに伴い国と地方の財政状況も一段と厳しさを増しています。すべては国民の負担によって賄われることを考えれば、行政経費を一層減量化し、効率ある行政運営に尽力しなければなりません。

反面、本町のみならず、地方自治体には課題が山積しています。少子高齢化、保健、医療、福祉、介護、農業、商工業、雇用、教育などの各方面で、解決しなければならない大きな行政課題を抱えており、この現実を直視する時、市町村行政にも大きな変革、改革が求められています。

それは市町村合併であります。歴史が物語るごとく、明治・昭和の大同合併、そして今、平成の大同合併が時代の潮流となっております。

町では、時代的な背景を考え、町民の皆さんになぜ合併なのかについて国・県・新潟都市圏の動向などの情報を開示し、各方面から大いに議論を深めていただくために、昨年、町の合併調査委員会を設置しました。委員会の論議をふまえ、最終的には、町民の皆さんの意思によって決定されるべきことであります。

21世紀における展望として、日本海交流時代の到来に向かい、日本海側を代表する新潟都市圏が一丸となり、世界に開かれた国際都市として産業、経済、学術研究の拠点、安心して住める生活の拠点としての魅力ある新しい町づくりは、早期の政令指定都市実現であると考えています。

皆さまのご理解とご協力を頂きながら、21世紀における町民の皆さまの幸せと横越町の発展のため全力を尽くして参ります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は巳年 2001

約二千七百種も生息

蛇（へび）は爬虫類（はちゅうるい）へビ亜目の動物で、トカゲと同じ祖先をもつといわれています。

体は細長く、四肢（し）はありません。細い舌の先端は二またに分かれていてよく動きます。こんな異様な外見から、蛇を嫌う人が多いようです。

蛇は温帯、熱帯、亜熱帯に多く生息し、アラスカ、シベリアなど寒い地方にもいます。全世界に約二千七百種もいるといわれています。

蛇は悪者？神？

日本の神話に登場する蛇はヤマタノオロチ（八岐大蛇）といって、頭が八つ、尾が八つ、体の長さは八つの谷を越えるほどだったといいます。そのオロチが娘を食いにきて、スサノオノミコトという神に退治されたという話です。

一方、蛇は神格化され、聖書や神話にもしばしば登場します。また、水の神として信仰されたり、家の守り神として家に住みつくのを喜んだりする例もあります。

このように、蛇は悪者として恐れられてもいますが、神としてあがめられることもあり、いろいろな話が世界各地に伝わっています。

また、毒蛇が恐れられ、嫌われるのはもちろんですが、それを薬用に使う例もあり、強壮剤としても珍重されています。

蛇の絵に足を書き足す

蛇は、古くから人間と関わりが多い動物だけに、蛇に関する故事やことわざもいろいろあります。

「蛇足（だそく）」。これはよく知られている言葉で、日常会話にも使われていますが、こんな由来があります。

昔、楚（そ）の国の役人が、蛇の絵を一番早く書いた者が酒を飲むことができるという競争をしました。一人がいち早く完成したのにもかかわらず、時間に余裕があったので足を書き足してしまい、負けてしまったという話です。

そのことから、あっても意味のないもの、余計なことという意味に使われています。

「藪蛇（やぶへび）」「藪をつついて蛇を出す」。しなくてもよいことをして、かえってよくない結果になることです。

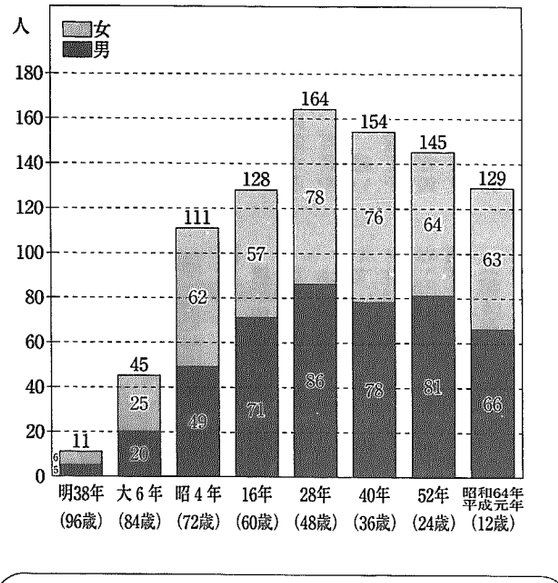
心豊かに暮らせる年に

「蛇穴を出づ」という言葉もあります。冬眠していた蛇が、春暖になって地上に出てくることをいいます。

二十一世紀の始まりの今年は巳年。低迷していた景気から脱出して春を迎え、みんなが安心して心豊かに暮らせる年にしたいものです。

町の巳年生まれの人口

（平成12年12月11日現在）



速報値がでました！ ～平成12年国勢調査～

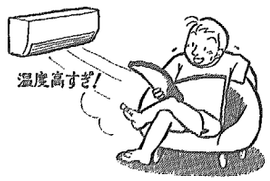
平成12年10月1日現在で実施された国勢調査も、皆さまのご協力により無事に終わることができました。調査票の集計速報による横越町の人口は10,795人（男5,277人・女5,518人）。世帯数は2,941世帯でした。前回調査（平成7年）より786人、403世帯増えました。

今後も次々と、皆さまから記入していただいた調査票をもとに様々な結果が発表されていきます。

ご協力大変ありがとうございました。

冬の省エネルギー

〈資源エネルギー庁〉



地球温暖化の原因になっているエネルギー消費は、家庭において年々増加しています。あなたの部屋は、暖房し過ぎていませんか？